



~ 5
1259
3





5



春

花屋庵換

正月

暮

草も木もさくさくしてはけ 貞徳

朝名の人さうりしはの女 宗因

またたつてゆく九日紅の赤 芭蕉

またたつてゆく 八柱の紅の女 野坡

春らや齒菜のさくはるの根 許六

花をいひてぬをの春もたつ 杉風

春たつてゆくさくさくはけ者 牧童

みづ子狐の巾で抱へたの女 園女

羽印の春さくさくはけ者 半残



元月

築地などく用る名花は文吉尾 諸九

之月や晴て雀はのり千下 嵐雪

元月や家よ傍の太刀は人去来

之月やまゝ偶くは雪はら良品

之月や雪はふむ人也 也

之月や雪もはら大宛

之月や雪もはら初更

之月や雪もはら千代

之月や雪もはら如泉

之月や雪もはら風表

之月や雪もはら馬明

之月や雪もはら二柳

之月や雪もはら半自

之月や雪もはら會羅

初鵝

初鵝のけしき會羅

初菱

初菱のけしき其角

初菱のけしき季吟

初菱のけしき濁子

初菱のけしき千代

初菱のけしき晚山

初菱のけしき乙由

初菱のけしき二柳

初菱のけしき夏江

初菱のけしき配力

初菱のけしき氷固

初菱のけしき去来

初菱のけしき希因

初菱のけしき也

初菱のけしき也

松飾 七国よりよき松飾り 昔本

齒朶 二月廿三日と記す 齒朶の間 可俊

蓬萊 蓬萊の根をひきとりてはなす 本店

獨科 独科の若むす 獨科の月日 松元

楪 独科の根をひきとりてはなす 琴風

書初 書初は酒樽の底の十文字 清門

初展 初展は酒樽の底の十文字 二柳

正月 正月は酒樽の底の十文字 万子

正月 正月は酒樽の底の十文字 由平

正月 正月は酒樽の底の十文字 角上

正月 正月は酒樽の底の十文字 二柳

子曰 ひとりの心をたすむる 去来

小松 小松の根をひきとりてはなす 青蘿

小松 小松の根をひきとりてはなす 儿董

小松 小松の根をひきとりてはなす 路通

小松 小松の根をひきとりてはなす 其角

小松 小松の根をひきとりてはなす 舒紅

小松 小松の根をひきとりてはなす 越人

小松 小松の根をひきとりてはなす 調竹

小松 小松の根をひきとりてはなす 芭蕉

小松 小松の根をひきとりてはなす げん

小松 小松の根をひきとりてはなす 英之

小松 小松の根をひきとりてはなす 蝶爰

小松 小松の根をひきとりてはなす 二柳

小松 小松の根をひきとりてはなす 支考

茶

着菓

神の味のほくやうあまのりちう 桃如

一孫の牡丹いさなたつたれうか 尾頭

船やいよふふはくせんらふま 正秀

あつしは通ふふらふあふれ 幾雪

さらば愛橋人落あひぬあつを川 曉臺

付まやふましく秋をわかつと 希因

万葉やあふし楓ふし秋の事 梅盛

万葉やふたの古たふひる人 駿道

万葉やのらふあはらうし 千代

後成 梅まよつとまやとるはし 巴靜

左義法 たまもやまこれ相成り抗 旭芳

こまはやあふらうと井は考 菊乙

常盤 一とや常盤あふれはくはし 友靜

あふ やふ入の二人あまてまらうん 家文

やふ入やふあつとあつてけさふ 押雌

やふ入やつしにたはら曇まらう 青蘂

柳忌の洋時ふとまはらわん 燕村

あふあふらうけり通るやあま情 重厚

梅 梅うふ遊りらあまをこつれ 芭蕉

なふらけの月つとまらう 梅の礼 桐雨

さうあつと梅ふあふれあふ 野水

ふさひゆいふあつてあは 訊竹

寺のあつとあつてあはら 吉由

あつとあつとあつとあつとあつと 嵐竹

万葉の拍ふふとあつとあつと 史明

あつとあつとあつとあつとあつと 斜嶺

白ふらしあつとあつとあつと 勺堂

と月とあつとあつとあつとあつと 支考

梅よよふかぬさかここの月 園女
灰柱く白梅うらむ植杉^示 凡此
梅けむらの月照くおひやれ 惟然
子おし向人よむらむ雲花 千代
歌ふよふかま而^ハ梅^カ 希因
お嵐のこけむらむ^ハ梅^カ 青蘿
月の梅^ハうらむ^ハ自^ハうれ 二柳
梅^ハうらむ^ハお嵐の^ハそま^ハ後^ハ 風律
本^ハおま^ハうらむ^ハ梅^ハけ^ハ花^ハ 蓼太
灯^ハおま^ハうらむ^ハ梅^ハの^ハ宿 蕪村
梅^ハうらむ^ハうらむ^ハ梅^ハの^ハ枝^ハ 千代
さ^ハの^ハこ^ハ梅^ハ枝^ハ未^ハ拈^ハて^ハ梅^ハの^ハ花 几董
浪^ハ波^ハや^ハ綱^ハの^ハち^ハり^ハも^ハあ^ハれ^ハむ 諸九
竹^ハ葉^ハの^ハさ^ハひ^ハ低^ハく^ハれ^ハ梅^ハの^ハを 木采

柳

梅月^ハけ^ハさ^ハあ^ハら^ハる^ハ柳^ハ 凡^ハ 曾^ハ果
一風^ハ吹^ハく^ハる^ハ水^ハて^ハさ^ハす^ハ柳^ハ 由平
水音^ハの^ハ中^ハ海^ハを^ハ柳^ハ枝^ハ 酒堂
雪^ハの^ハさ^ハひ^ハ梅^ハの^ハこ^ハろ^ハ 支考
我^ハす^ハお^ハ枝^ハの^ハそ^ハら^ハぬ^ハ柳^ハ枝^ハ 如元
川^ハ紙^ハて^ハ常^ハ解^ハふ^ハる^ハ柳^ハ枝^ハ 岱永
雪^ハの^ハさ^ハひ^ハ梅^ハの^ハこ^ハろ^ハ 支考
く^ハれ^ハさ^ハひ^ハさ^ハひ^ハと^ハあ^ハら^ハる^ハ柳^ハ枝^ハ 等盛
五六^ハな^ハら^ハる^ハる^ハる^ハ柳^ハ枝^ハ 去果
粘^ハ進^ハの^ハり^ハも^ハく^ハれ^ハる^ハ柳^ハ枝^ハ 巴弓
蝶^ハの^ハお^ハま^ハ押^ハさ^ハひ^ハら^ハる^ハ柳^ハ枝^ハ 蕪守
の^ハら^ハく^ハと^ハ柳^ハの^ハさ^ハひ^ハつ^ハみ^ハ 曉臺
道^ハの^ハへ^ハ柳^ハの^ハさ^ハひ^ハら^ハる^ハ 蘭更
さ^ハ柳^ハの^ハさ^ハひ^ハら^ハる^ハの^ハさ^ハひ^ハ中 蕪村

青柳かきくも静し 千代

ふつつかけて遠目れ柳か 青蘿

ふみ散ふ空にけりる柳か 木原

たふとも何ふもふも柳か 希因

ま柳かまも暖の地ふらん 蓼天

下萌 下萌むささねは柳か 惟盛

草芽 草の芽の上へ下を返るれ 和之

若井 若井や終ふふすしれも是 鬼市

春神 春のふ小若れつひ初や春暖ま 乙由

日のみや万葉車よまこれ州 紫曉

節ついでふれもきやまこれま 二柳

露臺 露出かへる露の露の露 子祐

芥 芥播やふひふらほくの段 十丈

鶴の窟やうらけほす根芥か 諸九

牙反 於よそえうなる内表くれ 文草

宵戸中ねええうら内りら

菌人の又やうる経る柳 大江丸

春寒 春の寒をばはほほ馬刀丸 二柳

餘寒 吹くけし梅もはるる餘寒は 文素

春霜 秋のけや五木のけさるこれ表 一鼠

南天の鳴声すもこのお 莫二

春晝 春の晝は雨うらふあさるこ 一笑

今一依炭炭買うらまこれ雪 史考

まこれ雪吹ふらうれてはまはし 蓼天

まこれ雪はらうらうらはら 蘭更

雪の息も消るうらふれ雪 可董

雪解

雪くけり青や板を命に申 水固
雪くけりや板の雪を命に申 二柳

氷解

氷くけり鮓く池のひりし 唐介
梅柳や日さぬくくみみ 北枝

霞

霞くけり大井さくくす 露沾
山系やあふくくくく 清泉

鶉

鶉くけりや板さくくく 鶉動
やひさるる井たきやクク 雁夫

玄兔

玄兔くけり下さくくく 玄兔
牛乳のむぬくくく 一鳳

春風

春風の息干ぬるもさく 許六
春風くわくくく 為有

春風

春風くわくく 春山
古風や赤葉の沖たの風 馬佛

鶯

鶯くわくくく 芭蕉
まもやいせは光動の 蘭更

鶯

鶯くわくくく 千代
まもや板さくく 曲翠

鶯

鶯くわくくく 曾良
まもや上毛さくく 曾良

鶯

鶯くわくくく 北枝
まもやの甘味さくく 若芝

鶯

鶯くわくくく 風國
まもやのうけくく 風國

雪やれのしの敷の風さう 野坡
 鶯もさささくう 萩のうら 若本
 雪のふかしくさや井れお 皆可
 雪のふかしくさや井れお 皆太
 雪やれ入一歩のえつらん 智月
 雪やれ雪の前の標本 兼露
 雪の指がえさる如うれ 堤亭
 雪のふかしくさや井れお 猿雄
 雪のふかしくさや井れお 南里
 雪のふかしくさや井れお 壺中
 雪のふかしくさや井れお 梨一
 雪のふかしくさや井れお 斗入
 雪のふかしくさや井れお 山只

白鳥

猫名

傀儡の在れあつらん 夏江
 白鳥は價あつらん 芭蕉
 白鳥やるよはらん 枳風
 白鳥やわらんおれお 安眠
 白鳥のちり撰る国はわりし 又翁
 白鳥は梅ふつらん 青蘿
 猫のほや寛のうらん 芭蕉
 呼出よ来てらん 去来
 正月もゆらん 露川
 みされぬらん 史邦
 梅うれ鼻らん 二柳
 雪もてまらん 千代
 雪もてまらん 素鈎
 猫の意疎か打てらん

二月

二月 花見と本いそじに二月廿 考

おぼろ三日流るる二月廿 大宛

おぼろ三日流るる二月廿 二柳

おぼろ三日流るる二月廿 青羅

おぼろ三日流るる二月廿 大魯

おぼろ三日流るる二月廿 松元

二月 秋の急目とれぬ二月亥 兎土

お雷 幼雷幼懶つくと申へし 五井

お午 幼午や幼のふ小松ふ一枚 二柳

お午や大勢はく同日土 豊重

お午やちねに隊の鶴声 蕪村

彼者 いたつふ柿接てあひく我 普人

去くもの力つひらひら今ぬ 杉風

区集 板城まゆふや秋く人の茶春時 正秀

ねく人思の事と紙子もあが 李由

一ふに採ておまきく秋く我 李東

佛お 大は強よちぬ佛のふれ 希周

春月 ともとちふれつれめてと月 捨石

くらねくは燈はほしと月 曉臺

先狐写猫もまらんとの月 大江丸

朧月 ともとの春う白ひや月 史邦

我つ小りくつてとちや月 芦角

桑の木のくさやねと月 春猪

涙ふくく流ておもと月 梅貞

とらふあふもはく小月 希周

雪のまにけりくちて月 青羅

三月のさくらくわく樹か 也有

櫻 孫衣や塀の搦木の糞 徐寛

春衣 其のおや人いひけの波 知白

春下 其れなや小ねふいふも 杜若

其れ日や雀の砂浴て 鬼貫

其れ日の牡丹ふきて 晩翠

其れて庵に出来い 圃更

永日 永と日や池の木の青 野水

永と日や日一にして 素九

永と日の西よ出て 秋光

暁 暁とて暖とて 知白

長雨 暁や鶉の糞ふふ浦つて 古帆

長雨 其れとふれし思ふぬ 杜國

湯炎 かけらや川のほとり 花亭

かけらや 雀の血 酒堂

湯をぬけし 和泉

てらけり 史邦

湯をにらぬ 梨一

湯をぬえたる 蕉下

湯をぬえたる 其繼

湯をぬえたる 曲翠

我思ひ 白圃

入つて 芭蕉

いふや 乙州

いふや 乱絲

枯草 蝶夢

うらやま 圃更

ゆりへ 青蘿

春

遊

水温 おのれさへ控ひあうくよ春の水 大江丸
あぬさむはや日溜りたのりた 阿誰

種後 種つて隔りりり神川か 辨石

種前 種前や馬けか小あしし 民古

麻府 麻府や子さ小ぬのつらぬら 暁雨

細歩 細歩や刀ふくし出さる 泉車
うこくしもこえて細歩甲のれ 去来

山姥 細歩や或家しとてこれらる 蕪村
山姥や若魂の峰いあけりりり 布舟

焼野 めりくしと音と吹出す焼野か 呼丁
山姥と小松のあけりりり 洞木

薙薙 山姥の世しと若さささるら 芭蕉

木芽 木芽ついでまてさる木芽る 牧童

接木 おのれさやささ湯治さふれ 淡々
食さや木芽つものことこれ 念結
おの中かやこころぬきぬき 淳見
十か小五かうけのし接木る 杜宇

お梅 お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅や小ほさすよのれとらん 布舟
お梅やいとぬえつらる玉 芭蕉

椿 お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉
お梅やとぬえつらる玉 芭蕉

谷のぬいさふらりめて白桂 二柳
馬印

紫

紫重

紫更

青蘿

涼菟

夏江

系

系望

龍石

物

佳南

曉臺

暮太

物

野坡

紅石

襟夏

羅人

千代

嵐

嵐雪

兒童

六紅丸

土

吞水

杏林

物

嵐雪

五

芙蓉

少東

菰

路通

芦

羅城

苦

園女

痛

牧童

たははちあこらへて伸上まの雲郎

并赤 落もやううふ笑る并れ死 其角

兼赤 菜馬よとねとねまをたれ 芭蕉

母と赤やふとあつとこのほ 米山

ふのれ小冊とくや旭のぬ 東明

ふのれや馬さの大いふま 毛純

ふのたのさくはくはく教れ 暁臺

菜の赤かきや眠るやねのり 窓巴

兼赤 かしらねのこれまをり酒のれ 青蘿

陸王 陸子のまをねぬいし左に非 雨拍

一いふ音ふとぬく上陸れ京 和及

於さうるくろくつる陸れ七 涼菟

られうる日のしけしぬやぬ 諸九

猪様を日かぶらうし陸れ 乙由

風流てふあやふも陸 大元

おとくはしんふんたの陸れ 蕪村

雨やうにさくのさうく陸れ 千代

田れぬのさうくぬかまの陸 青蘿

雪月やあふぬむふと鳴陸 風律

やういふん陸るのぬれふすカ 一笑

世の家ひくさやふも陸 流志

てふの赤とくし神中れぬけ非 芭蕉

ふのぬうれうつりや非のふし 園女

雪のふあつりふふてふうれカ 土芽

ものいふあてふもぬくぬ非 蘭更

蜂 蜂のまや一旬くは兄弟京 蘭二

蜂らや可きとられこいふう 大江元

田畑 いくもれ中ふ吏ふや田より 支考

くまのけしきありとほつ田タノ櫻井 愚心

性そふり井生の水や田タノの響 曉臺

春唐 尻声よふと鳴ありまけおき 鞍風

一折つて飛ぶまのさうりまけおき 二柵

唐唐 うつろおきてやおまの唐唐 文章

けとこれいんたうるよ山タノの丁 大嘗

破のまの葉極よけんふ丁おき 春鏡

丁けて門田もまこおもはふ 燕村

ぬきくとうろよよとわ田タノ 涼菟

日のまらや系をうてふ丁おき 方廣

引新 引つるまをやねてねの力ちから 后覺

引つるつるまをうてふ田タノ 古枕

引鴨 雲よまらふとてけとくろるや 未拙

鳥歸 枝の心とてくぬをまきまら 斗入

雲雀 砂川やまよ流てぬくいろ 許六

ふろしねよ流上つてまんいろ 惟然

そせ骨か中してまをながれ 浪化

いふあふ小蛇とからしわのいろ 南角

枝の本けさいろ上るいろ 北童

水のまにまゐりいろの中 北枝

若菜の作向むいろ 乙由

吹風よふ定らぬいろ 風國

細くふ葉一かけいろ 羅川

ゆつるはまゐりいろ 如行

小ふらふ風やいろ 柗材

いろつらやいろとまておる 榮枝

時と枝よぬちびく新の平とけ 一保

是

ねのいま河町の小舟の聲 千那
 とつとあふむのつひや紙の聲 吾仲
 大佛やうしろはひく紙の聲 蝶夢
 かつらつとさよふ風有と一の声 二柳
 紙やて紙の本紙紙のひく声 蕪守
 蕪守や紙をよのひくい声 水甫
 やふふふと土よすむ蕪守 也有
 ちふふふと土よすむ蕪守 長水
 大和紙けまもさうふも蕪守 蕪村
 蕪守ついでてりくるものまれ 空應
 蕪守は紙をよのひくまふ声 岱青
 蕪守 神楽ふひひふふと蕪守の聲 古帆
 吐きき 松風の尾ふふふと蕪守の聲 以琴
 牡丹花の尾ふふふと蕪守の聲 三千風

蕪

若針 若針の羽の一角ふたふたぬり 才登
 小針 流ふふふとふふふとぬり 爲有
 船波 船波のふふふとぬり 露言
 煙 煙波のふふふとぬり 大元
 夕照やふふふとぬり 蘭更
 村白ハ松のふふふとぬり 昆明
 あすふふふとぬり 惺和
 恰や三日の月ふふふとぬり 由平
 恰のころし 恰ふふふとぬり 蘭更
 寄居虫 瓜皮のふふふとぬり 天垂
 海苔 おとろへハ菌は食はての山崎 芭蕉
 海苔くらの赤れ足るるわらわ 尺艸
 孕麻 春海一秋のふふふとぬり 紫曉
 康麻 竹のふふふとぬり 角 行流

市の中やふるけり凡中 涼苑

才磨

曉臺

大仁

燕村

三月

二月、三月の清なるの候すうて 信徳

弥生、さくら風や浅草の水の音 東義

離志すくぬのさうや二月 荊口

離志すの列やあう後の声 國久

離の飯をれす松旭の歌 吾仲

離の間より来てくぬ佛寺 曉臺

松折より離の類にふ 蝶夢

すけらる望すのうし紋盤 雪芝

穀よりむいりつとま入後野 其角

松風とささるる江戸卦 輔士

小瀬老くよ江戸の給たえ水 二柳

出代 出代中人はやの二日月 也有

出代や牛合息して小系近 其角

出代の井戸はハ浅き契うぬ 大江丸

ふ、病よつれさきおめふか 千那

志衣 ゆく雨のふいしんもれ水 寄節

花 ゆいしんやむれあうの羽立橋 芭蕉

後もくれも花すらんすみ六 今我

年あま女まものくらりる堂 言水

花の雨朝ぬ境もくくく 仙化

雪の舞てたむこくくく 立志

花さうりつらうもさぬ法海三止

星い又相違来て浪人志の下 千那

花あつ日教は清す衣夜 去来

花ちよふあふちわ小娘ひ 千梅

花さくもあまきもあはす花の死 文州

花さくもあまきもあはす花の死 北枝

花さくもあまきもあはす花の死 路通

花さくもあまきもあはす花の死 漁川

花さくもあまきもあはす花の死 千梅

花さくもあまきもあはす花の死 風睡

花さくもあまきもあはす花の死 正秀

花さくもあまきもあはす花の死 如驢

花さくもあまきもあはす花の死 杉風

花さくもあまきもあはす花の死 朱拙

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

史邦

傘さして押あひもせぬ花

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

花さくもあまきもあはす花の死

橋

坂... 山店
 白... 其角
 庭... 尾頭
 た... 千那
 後... 柳五
 見... 許六
 つ... 一洞
 大... 木導
 葉... 李由
 山... 米麩
 大... 汶村
 山... 曉堂
 百... 許六
 竹... 竹阿

橋

又... 関雲
 世... 夢太
 老... 松元
 又... 千心
 源... 張道
 一... 木采
 塩... 枯竹
 一... 也右
 旅... 羅城
 ろ... 湖崔
 希... 希周
 蒼... 曲翠
 窮... 荻人
 青... 青羅

橋

月ふらり〜お松の冠 曉臺

戸の窓〜お松の冠 千代

梨花 那〜のれ星や青い山は〜 波村

〜のれ星や青い山は〜 除風

〜のれ星や青い山は〜 支考

お人ふ秋の夜〜 梨のこね 也有

吉花 笑つて山〜のれ星や青い山は〜 縮丸

海棠 海棠のり〜お松の冠 普葉

海棠のり〜お松の冠 暁臺

本蓮花 雨〜のれ星や青い山は〜 言露

薔路 雨〜のれ星や青い山は〜 文鳥

雨〜のれ星や青い山は〜 文鳥

雨〜のれ星や青い山は〜 文鳥

雨〜のれ星や青い山は〜 文鳥

藤 門〜のれ星や青い山は〜 お女 二柳

山〜のれ星や青い山は〜 千那

山〜のれ星や青い山は〜 曉臺

山〜のれ星や青い山は〜 千代

蓮花 山〜のれ星や青い山は〜 蓼太

山〜のれ星や青い山は〜 麦由

山吹 山〜のれ星や青い山は〜 二柳

山〜のれ星や青い山は〜 望翠

山〜のれ星や青い山は〜 蘭更

山〜のれ星や青い山は〜 惟中

山〜のれ星や青い山は〜 白空

山〜のれ星や青い山は〜 花洲

山〜のれ星や青い山は〜 朋水

山〜のれ星や青い山は〜 支考

くれつこの向いへむむ草部 園女
 おまふうれぬのまつくや草叶 諸九
 うつられたるまきし草叶 蘭更
 おくふや人住あれて草叶 曉臺
 草吹うのむ草叶の流出が 二柵
 ぼくふふふふふふふふ草叶 松瓦
 木彫部 物心のもくふふふふふふ 芦文
 茶摘 日の園やまふふふふふふ 正秀
 わくふふふふふふふふふふ 何狂
 眠の下ふふふふふふふふ 寒白
 青麦 青麦や青麦ふふふふ 敏實
 苗代 苗代やうふふふふふふ 許六
 苗代や踏んふふふふふふ 柳居
 花のふふふふふふふふ 古航

乃くむハ花ふふふふふふ 一風
 帝元と花の出兼る様れ 有庸
 もも果 ちの果ふふふふふふ 古帆
 数草 ちの果ふふふふふふ 蘭更
 鹿草 ちの果ふふふふふふ 愚心
 柳塞 柳塞や柳塞ふふふふ 沙明
 夏近 夏近や夏近ふふふふ 楓鹿
 昔の暮 昔の暮の暮ふふふふ 沾律
 居風部 居風部ふふふふふふ 嵐竹
 如行 如行ふふふふふふふふ 如行
 惟然 惟然ふふふふふふふふ 惟然
 嵐青 嵐青ふふふふふふふふ 嵐青
 諸九 諸九ふふふふふふふふ 諸九
 青蘆 青蘆ふふふふふふふふ 青蘆

行書

野見
 大魯
 野水
 野見

夏

四月

白量 初なる傍ふつうー白重 嵐
 更衣 扇屋の暖簾白ー衣 柳生
 衣之山ハ重ハ衣 乙由
 衣之山ハ重ハ衣 雪芝
 衣之山ハ重ハ衣 幸木
 衣之山ハ重ハ衣 鬼貫
 西ハハ娘持ハ衣 支考
 塩魚のうハ重ハ衣 嵐雪
 名取ハ重ハ衣 露沾
 衣之山ハ重ハ衣 嵐蘭
 衣之山ハ重ハ衣 刺更
 衣之山ハ重ハ衣 無村

裕

さくぶつてきてまゝ後、乙由

二月三日夕のそひらぬ、拾部 千代

孫枝

孫枝と名物のほむらひ、木岡

孫枝とあふまゝ、青蘿

孫枝とあふまゝ、捕芽

青屋

ついでいひよのたか青芝 鬼七

て用い入て風か、馬肝

四月

ついでと四月の山や新朋、竹平

ついでとあふまゝ、四月、晴臺

ついでとあふまゝ、四月、斗入

四月

ついでとあふまゝ、四月、圃更

茶屋

ついでとあふまゝ、四月、圃更

茶屋

ついでとあふまゝ、四月、圃更

ついでとあふまゝ、四月、圃更

孫枝

孫枝とあふまゝ、四月、圃更

権佛

権佛とあふまゝ、四月、圃更

佛生會

佛生會とあふまゝ、四月、圃更

花柳堂

花柳堂とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

夏

夏とあふまゝ、四月、圃更

舞のついでに人のまゝにふりかへす 貞徳
 舞のついでにふりかへす 芭蕉
 舞のついでにふりかへす 鬼貫
 舞のついでにふりかへす 牧童
 舞のついでにふりかへす 惟然
 舞のついでにふりかへす 萬平
 舞のついでにふりかへす 壽仙
 舞のついでにふりかへす 千那
 舞のついでにふりかへす 山店
 舞のついでにふりかへす 千色
 舞のついでにふりかへす 酒堂
 舞のついでにふりかへす 北枝
 舞のついでにふりかへす 野坡

舞のついでにふりかへす 千梅
 舞のついでにふりかへす 文坤
 舞のついでにふりかへす 諷竹
 舞のついでにふりかへす 希園
 舞のついでにふりかへす 嵐雪
 舞のついでにふりかへす 浪化
 舞のついでにふりかへす 言水
 舞のついでにふりかへす 杉風
 舞のついでにふりかへす 文仲
 舞のついでにふりかへす 岱水
 舞のついでにふりかへす 瓢水
 舞のついでにふりかへす 橋良
 舞のついでにふりかへす 一音
 舞のついでにふりかへす 千代

布袋

夢太
 猿雖
 隈子
 二柳
 青蘿
 儿董
 蘭更
 夢太
 蕪村
 為重
 諷竹
 千代
 希周
 支考

看

諷竹
 千代
 希周
 支考

舞

支考

野明

鞭石

葉文

海蒙

浪村

嵐雪

釣壺

風國

蕪村

青蘿

千代

大江丸

権妖

若菜

大江丸

書

いふことのまゝにあらはせしむ

支考

カレたふは長谷川ついでに

水導

カケーの歌うはたれれお

音羅

けーいふいふおのこはあつた

二柳

海をよぶふあせらるけいひ

臥夫

書

夏日の海よぶあせらるけいひ

沾徳

彩の雲のこころはや杜若

去来

昔をよぶこころは月夜ふ

曉臺

いふおのこは川原にわらふ

蘭更

書

懐ふこころはとひ下せとね夜

風睡

そいふこころはあせらるけいひ

蕪村

花とこころのこころはたれお

千代

書

流るるあふるあつたけや麦島

遊力

あつたおのこは種まかせたれお

夫艸

書

夏の植よつたや花のまゝぬれ

野坡

書

麦秋の夕のたれおさうけい

風喬

書

麦刈よりの風のいる心もどけ

瓢水

書

麦秋はたつたふたてあつたり

也有

書

夏本立 ぬくこころのこころはあつた

紅雪

書

懐の柔いあつたけいひのこころは

鬼貫

書

はる上はけしうはあつた

嵐竹

書

いつこころはあつた

蕪村

書

とけ入の田をよぶあつた

蘭更

書

本下書 年の月のまゝに心路や本下園

白石

書

つ止と小書とつたあつた

土芳

書

いふおのこはあつた

呂九

書

荒してあつた

几董

書

あつたおのこはあつた

曉臺

山よりして小舟漕りやうと并 蕪村

舟来して船とよ波に有る舟 几董

波にのまもちりぬうとくか 千代

舟のまはたれおまよとまぬひう 秋の坂

ふりひて舟元まぬぬとまぬ 支考

舟のまはたれおまよとまぬ 希因

舟まよかまの能まの白か 几董

舟まよとまぬの能まの白か 千代

舟まよとまぬの能まの白か 蕪村

舟のまはたれおまよとまぬ 青羅

まな橋やとて六鳥のさしひし 一路

紫橋や橋のいふとまぬのむ 里石

紫橋よいふとまぬのむ 方廣

ありらつとまぬとまぬ 嵐竹

こしちち旭のいろやあ楓 来山

尾吉ちちいとられも相のま 乙由

相の本やまきくともおぬよ 才磨

雷のぬしてらりぬ相のむ 史翔

しししせしりりもとぬ相のむ 也有

わふやや性写とけ小田の直 二柳

多しうてせあはししりおぬよ 風律

羽まり雨のよ鳥やふつとぬ 遊林

まふまよ入風まのやぬまぬ 麦浪

まふまよ入風まのやぬまぬ 麦水

まふまよ入風まのやぬまぬ 二柳

坂のまよやまのりぬ 團更

うと風まのぬぬぬぬぬ 蕪村

ひらぬの坂まよとまぬ 来山

雨のまますしーしやの内 正木
 雨並て故帳冷しーるうら 好春
 世にいくしんのはーり故帳の中 謙山
 春ぬしとほ人故帳つりぬ 其角
 寝いごーの故帳の扱ぬぬ 直生
 不ちくしとそよの言きく故帳 李東
 くらぬのむせては寝く故帳 希因
 鶯の孫つぬ宿のふりぬれ 儿董
 夕られのつふふさるるもりけ 竹阿
 故往や東より花れぬあけり 曉臺
 雨陸 松ぬよんふち柱のこゆ 芭蕉
 暮 ひとしとこぬあたまめく 都春
 新茶 ちやうとたすうこわうひたし 曲翠
 新茶 ちやうとぬぬぬぬぬぬぬ 支考

山とままに新茶の風うとる 雪壽
 風よ名のついでふくしう新茶 園女
 花ものいろぬしてぬかきけ 吾仲
 花ふもも茶ふもも茶ふもも 昨裏
 物凡 物凡やこらうと茶さうらうと 知誰
 鶯 清うぬぬの花や一ね能 宗瑞
 物凡 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 青雅
 物凡 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 芭蕉
 茶ひてぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 岩翁
 花の糸ふぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 大江丸
 卯をよぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 二柳

五月

骨 まつぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 渭川

かゝるが如風の責る五月か京 凡兆

五日まてあはれつゝあやう井 桃隣

きりの五條を過るきり井 乙由

あやう竹葉の影井 木枝

山風のまゝあつゝの井 希因

吉田鶴の鳥井 言水

うつくし井 萬子

鶴鳴家井 青流

葛蒲井 桃隣

我が小舟よ井 李吟

葛蒲妻井 乙由

葛蒲井 荷子

我屋井 諸九

清井 關更

競馬 紙井 几蓮

竹井 曉塵

葛蒲 比井 拙負

洋井 千代

洋井 希因

藤井 加生

川骨井 旭若

川骨井 几蓮

川骨井 隨友

川骨井 素堂

尚白

乙由

馬印

山店

千代

文雅

大宛

此原

芭蕉

嵐雪

東志

希因

旭芳

旭芳

千那

支考

素繪

斜筆

朱迪

史邦

配力

鬼貫

此筋

杜宇

蕪村

蝶喜

大嘗

重頼

引不ふにれをーとぬき

限かや只ききかぬきれた

若の花松とぬきしれかき

たかふぬきまのらうかぬきのふ

こぬきしてぬきのまぬきぬき

ふことぬきしぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

こらぬきぬきぬきぬきぬき

らうさぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

多ききぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

たきく(小)枝ありてつる(大)枝が 可蓋

枝の(小)く(大)く(大)く(大)く(大)く 布舟

筆(大)折る(小)筆(小)く(小)く(小)く(小)く 康茂

筆(大)追ひ(小)ぬ(小)れ(小)る(小)枝(小)れ 探芝

筆(大)の(小)より(小)受(小)の(小)心(小)を(小)し 支考

筆(大)や(小)こ(小)の(小)う(小)つ(小)に(小)ま(小)ら 千代

筆(大)并(小)よ(小)去(小)の(小)う(小)ち(小)や(小)四(小)十(小)産 風國

根(大)が(小)よ(小)る(小)あ(小)ら(小)う(小)香(小)一(小)と(小)井 櫻良

の(小)舟(小)小(小)お(小)か(小)一(小)き(小)の(小)あ(小)ら(小)が 大紅丸

の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)ふ(小)い(小)る 杜旭

人(小)の(小)や(小)ら(小)の(小)枝(小)把(小)う(小)ら(小)鳥(小) 登階

さ(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)よ(小)ら(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 芭蕉

う(小)す(小)ら(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 乙由

昔(小)の(小)我(小)古(小)葉(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 支考

も(小)枝 揚(小)る(小)も(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 乙由

た(小)ら(小)う(小)の(小)枝(小)や(小)ら(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 春柳

抽(小)る 一(小)枝(小)も(小)ら(小)ひ(小)さ(小)る(小)も(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 蓼太

松(小)指(小)る 志(小)ら(小)る(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 重厚

栗(小)木 雷(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 梅貫

枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 乙由

枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 乙由

枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 乙由

田(小)植 植(小)つ(小)け(小)一(小)枝(小)は(小)と(小)日(小)月(小)の(小)門(小)田(小)の(小)枝 青嶽

木(小)の(小)枝(小)の(小)後(小)を(小)押(小)して(小)田(小)植(小)部 古道

木(小)の(小)枝(小)の(小)後(小)を(小)押(小)して(小)田(小)植(小)部 支考

田(小)の(小)軒(小)の(小)田(小)植(小)や(小)ら(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 梅子

池(小)の(小)あ(小)ら(小)う(小)つ(小)けて(小)田(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 儿董

の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小)の(小)う(小)つ(小)の(小)枝(小) 乙由

國權

次の国に... 田代

甲乙

... 千代

早苗

... 希因

田代

... 此

早苗

... 三止

田代

... 泥足

田代

... 蓼太

青田

... 此

田代

... 千山

田代

... 鹿巴

青田

... 無倫

田代

... 露川

青田

... 支考

田代

... 温故

五月の月... 園女

五月の月... 如山

五月の月... 文章

五月の月... 皇座

五月の月... 無村

五月の月... 希因

五月の月... 蓼太

五月の月... 五明

五月の月... 市春

五月の月... 芭蕉

五月の月... 悪巴

五月の月... 野明

五月の月... 浪化

五月の月... 浪化

梅雨

白雲のちかぢかぢ梅雨の中チカ不玉
合橋のちかぢかぢ梅雨の中チカ都友

水鏡

ぬる風呂と静か〜〜〜弘氏
くひらつらぬやぬぬぬ北枝

ひよ〜〜〜人狂もろ〜伯之

日〜〜〜いもおさ〜青羅

空〜〜〜よ来〜〜〜青羅

老書

書やはた〜〜〜枝の片〜漕川

新書

書書の書〜〜〜い色〜鬼貫

新書

たつたのね〜〜〜池の鴨チカ一扇

新書

は〜〜〜か〜〜〜魚の〜浮葉チカ圃更

老の春よた〜〜〜宿の浮葉チカ嘯山

あ〜〜〜〜つ〜〜〜浮葉の聲〜窓巴

つれづれやたれ〜〜〜宿の〜行山

いせもや猪のす〜〜〜枝の風〜馬佛

里川や猪〜〜〜つ〜〜〜山チカ米山

猪無

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ去来

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ史明

猪

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ曉臺

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ芭蕉

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ蘭子

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ野徑

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ萬手

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ声本

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ青峨

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ夫草

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ正香

〜〜〜の〜〜〜つ〜〜〜猪チカ也有

花のこゝろをたぬとてさしこれ 表巻

匠のこゝろをたぬとてさしこれ 大江丸

月のおのれおのれとてさしこれ 青蘿

花のこゝろをたぬとてさしこれ 大江丸

さゝの紫のこゝろをたぬとてさしこれ 支考

鶴のこゝろをたぬとてさしこれ 蕪村

三日月のこゝろをたぬとてさしこれ 几董

たのこゝろをたぬとてさしこれ 曉暈

さゝのこゝろをたぬとてさしこれ 重厚

子にふらふとてさしこれ 大江丸

枕のこゝろをたぬとてさしこれ 蓼太

縁のこゝろをたぬとてさしこれ 西吟

吾のこゝろをたぬとてさしこれ 百明

雁のこゝろをたぬとてさしこれ 河瀬

華

子

巻

龍

雁のこゝろをたぬとてさしこれ 曉暈

つらつとてさしこれ 蕪村

夏の日やびんひくとてさしこれ 牧童

そとをたぬとてさしこれ 方廣

火取虫のこゝろをたぬとてさしこれ 野風

海邊のこゝろをたぬとてさしこれ 其角

かゝるや風土のこゝろをたぬとてさしこれ 蘭更

かゝるや月のこゝろをたぬとてさしこれ 曉暈

子にたぬとてさしこれ 嵐雪

武士のこゝろをたぬとてさしこれ 太抵

火車宿のこゝろをたぬとてさしこれ 十州

わややとてさしこれ 谷縣

麻子のこゝろをたぬとてさしこれ 桃隣

芥の青にたぬとてさしこれ 紫暈

麻

紫暈

えのりよのめいおつらき... 羅城
草のけしきよふらふらふの森 五明

六月

六月 六月廿四日... 芭蕉

六月廿五日... 鬼貫

六月廿六日... 虚谷

六月廿七日... 蓼太

水音 六月廿八日... 芭蕉

水音 六月廿九日... 兼魚

水室 六月三十日... 言水

水音 七月一日... 二柙

水音 七月二日... 大石丸

水音 七月三日... 二柙

一夜酒 七月四日... 盤水

富士病 七月五日... 泊湖

田の草に遊... 兼魚

徳壽寺 七月六日... 兼村

月降やん... 曉臺

亦後 七月七日... 土圃

つくり... 兼村

兼村 七月八日... 言水

兼村 七月九日... 兼村

風書 七月十日... 兼更

何れ... 窓巴

波の風... 芭蕉

青嵐 七月十一日... 史邦

村の... 重厚

白雨

白雨の如きとていふ事
 第一本は白くけりて水は凍り 山古
 マミのこはけ枝まじり山のうへ 昌高
 タミの白きことまて行ふぬら 蛙正
 白雨の如きと谷のひのふ下 蘭舟
 タミの枝まじりて水のちよ 鞞風
 白雨のこはけ枝まじりて水のちよ 利牛
 タミの枝まじりて水のちよ 李由
 タミの枝まじりて水のちよ 徐宣
 タミの枝まじりて水のちよ 馬印
 可らうとていふ事 白仙
 ひらうとていふ事 雲風
 木の申ふとていふ事 宗比
 白雲の如きとていふ事 夢太

清水

東 泉

清水の如きとていふ事 千代
 清水の如きとていふ事 蕪村
 清水の如きとていふ事 儿董
 清水の如きとていふ事 方廣
 清水の如きとていふ事 芭蕉
 清水の如きとていふ事 也右
 清水の如きとていふ事 許六
 清水の如きとていふ事 鬼貫
 清水の如きとていふ事 八橋
 清水の如きとていふ事 路徑
 清水の如きとていふ事 范果
 清水の如きとていふ事 史邦
 清水の如きとていふ事 去来
 清水の如きとていふ事 馬印

夏月

葉の若きもはらけの夏月 諸九

芒穂てきつらふせの夏月 作書

あふらふせの夏月 團更

夏の月とせのれいし 大丘

言いつや白流の風あり 良品

懸もあらしきくし 杉風

あかりのあふらふせ 児童

空なうらハれあふれ 大宛

とたねとまの青やねの門 太徳

日の影と押さくおふさ 蘭更

ま秋とあふらふせ 涼菴

惟子 惟子 惟子 杜若

行 行 行 諸九

行松 常陸の葉やとや行松 嵐堂

抱翁

香の氣が二むりり行松 一礼
抱翁や夏よ涼むも并れ陰 也有

竹燧

うつせみの名ふらふ竹燧 希因

草

あけの風さるる草 無村

水石

水の石けしつらふ水石 其角

石太

石太のよもふらふ石太 其角

風蘭

風蘭のよもふらふ風蘭 進歩

蓮

ひく蓮やあふらふ蓮 玄梅

枝のよもふらふ枝のよもふらふ 三平風

蓮二本とれいれ蓮やあふらふ 白函

字のよもふらふ字のよもふらふ 曉堂

竹のよもふらふ竹のよもふらふ 大骨

花はこれつよとし月のまじりぬ 園更

蒲植 藤はや又代のぬいこおきうら 可園

夕影 夕ふれぬくつのはる藤より 凡兆

夕影のよぬよふ影かろくさう 乙由

色紙 色紙やみそつと深むとらく 芭蕉

色紙のむらとよ下れば枝はゆ 何中

色紙や花のたは路の人のふ 二柳

色紙や撒ふらむじつうら 大江死

色紙のよとよとつとつとつと 馬印

菅茶 雨降や燈のこりる菅れふ 嵐竹

聖妻 ふくこの世のしとくは美し 惟然

松ふふとく波もる風こく 騷道

川風やなごころつとらぬ 等般

石竹 石井のねとふくこの世の 紫暁

綿衣 丹波路中流のよのよとす 蘭更

麻 くれもまうくれもくらんこら海 風皆

持麻やらうふゆやけい 浪化

茶漬 志とのよとくぬきぬきぬき 苔水

凡衣 花とてまこくふ凡のこく 芭蕉

凡衣のよとくぬきぬきぬき 暁堂

あつとぬきぬきぬきぬき 蕪村

凡衣 内町筋ふ世まひまきり 京菴

凡衣のはらひつこふく世とて 芭蕉

ちんちんちんちんちんちん 希因

林檎 つゆしとてんこ条は本より 尚白

百日衣 一掃のお有るなり 百日衣 方居

障 障はくは本よくむや障のよ 其角

障の其本よく入つとる 鬼貫

霞の青れしむや風のつらふ 紅石
 並ねや二つとつ風を渡る 孤山
 山風の吹くや一々の風のまゝ 空芽
 相の本のさうはうやほねる 萩人
 とのの葉のまゝにまゝに風 呂物
 松風のまゝのまゝにまゝに風 千代
 川うやまゝのまゝにまゝに風 杜若
 扱られてたうれ命や葉の能 此筋
 と日月や細まほまゝに風 從昔
 いちやまゝのまゝにまゝに風 二柳
 秋道 秋まゝのまゝにまゝに風 汶村
 秋まゝのまゝにまゝに風 除風

秋

七月

義

ひろくと木葉動て秋まゝ 兎貫
 秋まゝのまゝにまゝに風 浪化
 秋まゝのまゝにまゝに風 北枝
 秋まゝのまゝにまゝに風 角上
 秋まゝのまゝにまゝに風 尚白
 秋まゝのまゝにまゝに風 也者
 秋まゝのまゝにまゝに風 二柳
 秋まゝのまゝにまゝに風 兒童
 秋まゝのまゝにまゝに風 大江丸
 秋まゝのまゝにまゝに風 青羅
 秋まゝのまゝにまゝに風 夢太
 秋まゝのまゝにまゝに風 路健

秋夜の涼きよき雨 毛統

秋夜の涼きよき雨 采録

秋夜の涼きよき雨 二柳

秋夜の涼きよき雨 松尾

秋夜の涼きよき雨 錢並

秋夜の涼きよき雨 前口

秋夜の涼きよき雨 嵐雪

秋夜の涼きよき雨 康雅

秋夜の涼きよき雨 燕下

秋夜の涼きよき雨 去来

秋夜の涼きよき雨 青蘿

秋夜の涼きよき雨 涼菟

秋夜の涼きよき雨 几董

秋夜の涼きよき雨 園女

七夕

七夕の涼きよき雨 川口

七夕の涼きよき雨 前口

七夕の涼きよき雨 嵐雪

七夕の涼きよき雨 康雅

七夕の涼きよき雨 燕下

七夕の涼きよき雨 去来

七夕の涼きよき雨 青蘿

七夕の涼きよき雨 涼菟

七夕の涼きよき雨 几董

七夕の涼きよき雨 園女

枕洗

七夕の涼きよき雨 吉女

七夕の涼きよき雨 大江丸

七夕の涼きよき雨 此節

七夕の涼きよき雨 其角

七夕の涼きよき雨 園更

七夕の涼きよき雨 珈京

七夕の涼きよき雨 卓袋

七夕の涼きよき雨 野坡

七夕の涼きよき雨 青雅

七夕の涼きよき雨 知七

七夕の涼きよき雨 園更

七夕の涼きよき雨 乙由

七夕の涼きよき雨 土袋

七夕の涼きよき雨 泥足

神楽

七夕の涼きよき雨 土袋

七夕の涼きよき雨 泥足

野波

灯火も直ぐすけ色絶つらん 黄山

もけさも又ひひや絶ふ 也有

大江丸

麻着 折るや其う売掛の末の末 経即

送天 送天舟一里流しつゝのこゝ 順水

諸九

高紅紫 高紅紫三六のりた柱うれ 千那

大江丸

比竹

灯籠 灯籠の二十日登りて灯籠うれ 比竹

支考

二柳

切籠 切籠の風はひらき 輝角

扇置 扇置く秋はこれぞあつた 華堂

也 有

捨園 桐の葉の捨てて 蘆元

景賢

乙由

千那

石水

言水

蕪村

大江丸

義入 やふ入やまの秋のおうり 誠声

蘭更

其角

大江丸

秋風

幸ひし月の夜とあはれいふ大邦 葉香
 むしとみれば秋の角力 芭蕉
 面取けよしのこころなつ角力 春幾
 下帯 許六
 角力 木道
 幽ほの 盛弘
 雲の角力 六合
 舟もとの風 指華
 指 支考
 舟 北枝
 秋 千代
 乙由 乙由
 芭蕉

秋風

鶴の尾ふつれり 荆口
 舟 芭蕉
 大根 素覽
 川 千那
 生 従言
 秋風 志井
 秋風 風律
 秋風 凡兆
 秋風 波村
 秋風 陽和
 秋風 蝶夢
 秋風 大江丸
 秋風 蕪村
 秋風 青羅

秋雨

秋風や巻くふらふらと 曉臺

秋の心骨をさしきり 湯島

秋の心骨の尾のらうらう 孤倉

菜島の一箇ひや秋のらら 李由

露

朝つちや露のうらうらう 吹峰

白雲のふらふらと 児圭

大粒のふらふらと 青羅

秋のふらふらと 大紅丸

秋のふらふらと 北枝

香

秋のふらふらと 卓夫

秋のふらふらと 毛奴

秋のふらふらと 栗更

秋のふらふらと 嵐書

雅妻

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

秋のふらふらと 嵐書

あつしんしんくぬんしんすきん 希因

女んむ時希のまのませよ 乙田

秋風とうらうてふさう女んむ 曉臺

女んむ時希く時ふもさうしん 青羅

秋海棠 日の後にはこねこや秋海棠 青羅

松楓 ぬふしと念ひ松楓のつら 露川

ひら月のおひふらぬ松楓 藍丹

松楓 ねむのさうしん 松楓 幾葉

松楓 ちかむのさうしん 松楓 芭蕉

松楓 ちかむのさうしん 松楓 蘭二

蘭 万葉のさうしん 松楓 萬字

松楓のさうしん 松楓 青羅

松楓のさうしん 松楓 青羅

松楓のさうしん 松楓 青羅

葉

おふふやのむのむのむのむ 昌房

おふふのむのむのむのむ 其糖

おふふのむのむのむのむ 北枝

おふふのむのむのむのむ 玄梅

おふふのむのむのむのむ 去来

おふふのむのむのむのむ 諸九

おふふのむのむのむのむ 蓼太

おふふのむのむのむのむ 二柳

おふふのむのむのむのむ 石蘭

おふふのむのむのむのむ 理玉

おふふのむのむのむのむ 二柳

おふふのむのむのむのむ 路春

おふふのむのむのむのむ 有香

おふふのむのむのむのむ 有香

幕をたなびてまはる竹のむ 風國
ゆくまの神をぬれとて流す 柳葉

なちとらる人どまふ神を封 杜宇

秋 ちのれをちこち入瓶ふ夜のを 車明

水のりやまの鴨の歌、おの下 園更

白をちやとくひのるを初 青羅

ふちとふつけてまはる夜露 鬼貫

秋 ちのれをちこち入瓶ふ夜のを 黄唇

風の音を秋とてまはる人 大江元

夜 ちのれをちこち入瓶ふ夜のを 斗入

秋 ちのれをちこち入瓶ふ夜のを 蓼太

色蕉 休計 鬼貫

石のまをちこち入瓶ふ夜のを 希因

夕言とくまらるる舌うね 暁臺

一のりのおまをちこち入瓶ふ夜のを 園更

花 ちのれをちこち入瓶ふ夜のを 盛弘

尾 ちのれをちこち入瓶ふ夜のを 萬子

秋の日や夜露の村尾をぬ 青羅

夕潮をちこち入瓶ふ夜のを 祐昌

餘のまより揺るまらるる舌うね 乙由

口切のちこち入瓶ふ夜のを 素覽

義林や舟のちこち入瓶ふ夜のを 泊船

揚るるの車も海一燈のま 水谷

山もや人のちこち入瓶ふ夜のを 仙化

菰葉 露を代はらひてぬるる草一葉

菰花 果をともむるひのひのむせ 海老

のつりしほきおちのりぬる 露川

早稲のあやむ甲のさる人さへ 曲翠

早稲のあやむの田は二番草 露川

夕べのやまの露はちのひて今もす 松鶴

ふ指のまやを登るまじのなほ 支考

いんや門田の早稲とむつり 之道

露草 露は二極あはせりるをいし 史邦

やう枝の枝やふりるをいし 支考

露草 露はまや月をいおてるをいし 呂曉

露草 露はまや月をいおてるをいし 呂曉

露草 露はまや月をいおてるをいし 呂曉

西丸 猪の鼻くすつる西丸ぬ 灯七

露の後のまよいやし西丸打 梨旭

草 露下まよけてまよくすはれ 露川

草 いもいやくはな月をいむなる水 山川

草 又のうらんおぬしの月の草 大江丸

一葉 桐の葉いあてても下よるる 鬼貫

一葉 なるらと一葉のちやねの上 有収

一葉 露のまを中より一葉ふれ 夢太

草 露はくふつて柳のたより日か 芭蕉

草 柳ちりややまろくと陸の目 土芳

草 さいしとやを花を井邊の柳 壺中

草 露のまを中より一葉ふれ 大江丸

草 せんろくをきてくしは本握 知足

草 吹流の作白くおらぬけけ 乙由

草 露のまを中より一葉ふれ 曉堂

虫

三日月の角のふくまの権希因

灯のよまのふくまの枝の山 蕪葉

赤輝のふくまのふくまの壺中

ちの音のふくまの洗るの中 園女

ふくまのふくまのふくまの文鳥

日清のふくまのふくまの蘭更

雲のふくまのふくまの青羅

雲のふくまのふくまの文野

菖蒲のふくまのふくまの乙由

紫鶴のふくまのふくまの雲鈴

音のふくまのふくまの感字

権前がふくまのふくまの扶人

のふくまのふくまの除風

晴

今もは命のふくまの夢太

居るふくまのふくまの希因

寺のふくまのふくまの二柳

軍のふくまのふくまの青羅

後援のふくまのふくまの木梁

ふくまのふくまのふくまの千代

陣のふくまのふくまの孤屋

及原の浪のふくまの惟然

のふくまのふくまの諸九

いふふくまのふくまの圃更

ねまのふくまのふくまの車来

後まのふくまのふくまの桃咲

後まのふくまのふくまの雪芝

後まのふくまのふくまの雪芝

後ま

ねま

後ま

鈴也や雨の千枝のつむぎ 二樹

鈴也のつむぎのつむぎ 曉臺

後綴 鈴也のつむぎのつむぎ 千明

鈴也のつむぎのつむぎ 四睡

義忠 鈴也のつむぎのつむぎ 色薫

久松 鈴也のつむぎのつむぎ 谷水

川也のつむぎのつむぎ 野徑

刈也のつむぎのつむぎ 其由

世明 湯もつむぎのつむぎ 麦光

秋枝 此の葉のつむぎのつむぎ 野往

秋暎 秋の暎のつむぎのつむぎ 波舟

暎たるつむぎのつむぎ 曉臺

秋暎 秋のつむぎのつむぎ 青羅

葉也のつむぎのつむぎ 支考

陸 酒のつむぎのつむぎ 古帆

楸 直也のつむぎのつむぎ 秋暎

楸 楸也のつむぎのつむぎ 蝶夢

楸 楸也のつむぎのつむぎ 蝶夢

秋暎 秋のつむぎのつむぎ 示蜂

秋暎 秋のつむぎのつむぎ 青羅

秋暎 秋のつむぎのつむぎ 曉臺

八月

八朔 八朔のつむぎのつむぎ 許六

八朔 八朔のつむぎのつむぎ 祐昌

田面 田面のつむぎのつむぎ 白雄

田面 田面のつむぎのつむぎ 白雄

秋暎 秋のつむぎのつむぎ 木導

放書 心花や氣をうけては生かす 乙由

放書 放書は花は叶はぬと云ふ 萍花

駒匠 駒匠は馬をよつとけり 正秀

駒匠 駒匠は馬をよつとけり 浪化

信者 信者のまひやとぬ人の海 太祇

信者 信者の月やむくひにさるる 正秀

信者 信者の月やむくひにさるる 希因

信者 信者の月やむくひにさるる 原松

信者 信者の月やむくひにさるる 二柳

名月 名月やさるる下る瀬田の江 如元

名月 名月やさるる下る瀬田の江 満春

名月 名月の白ひのまきみ 木枝

名月 名月の白ひのまきみ 芦角

名月 名月の白ひのまきみ 言水

名月 名月の白ひのまきみ 去来

名月 名月の白ひのまきみ 芦本

名月 名月の白ひのまきみ 朝倉

名月 名月の白ひのまきみ 乙由

名月 名月の白ひのまきみ 浦盛

名月 名月の白ひのまきみ 廣女

名月 名月の白ひのまきみ 慈風

名月 名月の白ひのまきみ 千代

名月 名月の白ひのまきみ 嵐雪

名月 名月の白ひのまきみ 嵐雪

名月 名月の白ひのまきみ 青草

名月 名月の白ひのまきみ 土芳

名月 名月の白ひのまきみ 守武

名月 名月の白ひのまきみ 守武

月をみるねをある方けほいす 酒紅

赤らるる秋のまをれ月とよみ 几董

月見 庭もふと庭影も月とよみ 洞梨

寺よあてはる月夕の月とよみ 芭蕉

海濱の月とよみ 正秀

新月 秋月やとらふむふんこと 舎羅

雨月 冬月のもねとよみ 十梅

十夜 家よふ月の中とよみの青 来山

十夜 月とよみの月とよみ 千梅

十夜 月とよみの月とよみ 宇鹿

十夜 月とよみの月とよみ 儿華

三日月 二日月やとらぬの極のまをれ 十夫

三日月 秋のまをれ 杉風

三日月 月とよみの月とよみ 桃墮

月

蜀黍のまをれ 曉臺

秋のまをれ 仙行

振の本のまをれ 鬼貴

まのまをれ 元昌

春のまをれ 春水

香焚て我とまをれ 海棠

月とよみ 近之

秋のまをれ 青蘿

風とよみ 曉臺

秋のまをれ 土芳

村のまをれ 大江丸

秋のまをれ 尚白

秋のまをれ 斗入

秋のまをれ 露川

愁一ふもものもどれぬ月夜か 松兄

拙の藤よりくちや燈の月 去来

月代や雀こころつくさぬの中 圓虎

字良 世にまじりふ人よはひなり月夜 雨聽

初夜 初夜やそよ風のくさくさして 夢太

秋暮 死もせぬ旅路のそよ風の所 芭蕉

深き 鴉の鳴るも秋のくれ 乙由

大なる 雨の音はくちのくれ 角上

ものつゝぬ人ともさる秋の所 乙由

秋ぬまえせぬや秋の秋のくれ 雲鼓

秋のくれ種のもよもせ日は 千梅

秋のくれ海よりくちのくれ 野坡

日あかりや秋のくれのくれ 正秀

情よく巫女は惚れぬ秋のくれ 言水

夕のくれ種とわや寺のくれ 風國

竹まきくちのくれのくれ 几董

柱まきくちのくれのくれ 青蘿

秋夕 后風居ふ来つく秋のくれ 水魚

秋夕 道つふかゆく暖くは秋のくれ 正秀

ひるさぬ風吹のくれのくれ 支考

おそひしは露てまはりのくれ 栞色

旅人と持本よは秋のくれ 大柳

おそひしは露てまはりのくれ 青蘿

川神のつぎは秋のくれ 也有

木花よは秋のくれのくれ 風妻

秋夕 秋のくれのくれのくれ 鬼貫

秋夕 秋のくれのくれのくれ 由仙

夕のくれのくれのくれのくれ 大は丸

枕を 舟にきて枕を枕の柱うけ 鶴更

樹を 舟をこゝろのむし摘み神一 風國

やき 早稲のひつりのま 野童

秋を 秋の枝やまをひらけと雲霞 松泊

永を 永のまぬぬも水一様ひくも 北枝

きたねや又うらふまのま 其葉

暴風 暴風のまのまのりくつてのたれ 塵生

白空 白空のまのまのり なる暴風 白空

秋航 秋航のまのまのり なる秋航 秋航

希因 希因のまのまのり なる希因 希因

也有 也有のまのまのり なる也有 也有

青蘿 青蘿のまのまのり なる青蘿 青蘿

燕村 燕村のまのまのり なる燕村 燕村

山見 山見のまのまのり なる山見 山見

池芳 池芳のまのまのり なる池芳 池芳

夢太 夢太のまのまのり なる夢太 夢太

此由 此由のまのまのり なる此由 此由

雁道 雁道のまのまのり なる雁道 雁道

青蘿 青蘿のまのまのり なる青蘿 青蘿

土芳 土芳のまのまのり なる土芳 土芳

知白 知白のまのまのり なる知白 知白

可重 可重のまのまのり なる可重 可重

牧童 牧童のまのまのり なる牧童 牧童

曉臺 曉臺のまのまのり なる曉臺 曉臺

言水 言水のまのまのり なる言水 言水

二柳 二柳のまのまのり なる二柳 二柳

大江 大江のまのまのり なる大江 大江

枕を 枕をのまのまのり なる枕を 枕を

樹を 樹をのまのまのり なる樹を 樹を

やき やきをのまのまのり なるやき やき

秋を 秋をのまのまのり なる秋を 秋を

永を 永をのまのまのり なる永を 永を

きたね きたねをのまのまのり なるきたね きたね

暴風 暴風をのまのまのり なる暴風 暴風

白空 白空をのまのまのり なる白空 白空

種瓢

二かゝ人の心におよそく生備
白りしなす者いふくへ 凡兆

種瓢

冬風 しの風戸をよも紫こし控らし 園木

鳥風

市人のきつもつた天 凡 柱煙
おんかくこふさひー鳥風 蓼太

秋風

初ハ中ぬらうて流くいそまの 千代
おハ中ぬらうて流くいそまの

風

おハ中ぬらうて流くいそまの 渾望
おハ中ぬらうて流くいそまの 渾望

風

帷一重志すてさうハのき 乙由
帷一重志すてさうハのき 乙由

風

雪冷るお中よひらハのき 丈竹
雪冷るお中よひらハのき 丈竹

風

おんかくこふさひー鳥風 青羅
おんかくこふさひー鳥風 青羅

西心也日の人さうハのき 時臺

おんかくこふさひー鳥風 蘭更

おんかくこふさひー鳥風 大江丸

おんかくこふさひー鳥風 曉臺

おんかくこふさひー鳥風 尚白

おんかくこふさひー鳥風 冰峯

おんかくこふさひー鳥風 園更

おんかくこふさひー鳥風 二柳

おんかくこふさひー鳥風 色蕉

おんかくこふさひー鳥風 也有

おんかくこふさひー鳥風 曉臺

おんかくこふさひー鳥風 蕪村

おんかくこふさひー鳥風 白芝

おんかくこふさひー鳥風 芭

木つたの入上りり敷のね 文章

山雀 ふうや櫃の老木は森はもろ 蕪村

百舌鳥 草堂は蛇の心はうらみたり 野坡

栗採や日入をく蛇のうゑ 曾米

結つて風眼とふたつこれ 圃更

鴉鳴や夕日の影を放の末 也有

弱鳥 篠竹の弱鳥は棲むやあけ渡 沾葉

様も 夕ぐれとしてぬす様の羽音は 一保

鶺鴒 せまれいやは空よらぬさ畔の上 磨盤

鶯 さらさらたてたてらして鳴るる 即高

そらへしとまよやちるはうら 飄行

まのつひふ鶯のまのたけしにが 希因

風や小舟は深まのやせ鶯 境臺

うられたる秋成をまよは鶯部 千代

鶯 さらしとまよのまのたけしにが 鶯五

鳩 鳩のやうなうらとまよのうら 托巾

山伏の鳴ふくまよ入ふりり 嘯山

絲 さいまよのうらとまよのうら 圃更

うらまよのうらとまよのうら 一口

鞋 鞋のまよのうらとまよのうら 風孤

鞋をんてまよのうらとまよのうら 圓木

素 おあし小尻はまよのうらとまよのうら 蕪葉

あつたまよのうらとまよのうら 惟然

あつたまよのうらとまよのうら 萬乎

あつたまよのうらとまよのうら 村若

あつたまよのうらとまよのうら 白嶽

あつたまよのうらとまよのうら 轍土

あつたまよのうらとまよのうら 希因

陽川

木導

蘭更

大江丸

蕪村

千代

雲口

野坡

正秀

探芝

大江丸

如泉

蕪村

蕪村

也右

馬印

陽和

大曹

希因

湖天

秋色

蕪村

魯江

蓼太

大歴

蕪村

乙由

孤屋

雜

引板

係水

蕪水

雜

蕪山

也右

陽和

大曹

湖天

秋色

蕪村

魯江

蓼太

大歴

蕪村

乙由

孤屋

箱をける板を掛く一ふ家井 馬印

田刈 箱刈や付美さうなる親よれ 榮枝

その刈のふくふかうて田刈也 也有

落植 落植ひうふ都らうねのふゆじ 乙由

落植掛ひ日らうふふ歩いし 燕村

赤 赤のこし織とて酒の鶴葉掛 支考

栗 栗畑のねくさうしうた合井 空芽

九月

九月 あつら九月日わや萩のり 水魚

重陽 りふの菊中箱の飯のこま井 戈磨

九日ふさくか様も白桂 待彼

つらねのらふもさうふの菊 宇月

出代 出代市は夢よしまかきふのり 金毛

九月

にふふの音白きやてたふ井 八幸

ほろろを鼓うつく店のみ 其角

たうちつらものい葉ゆさる店のみ 千代

紫烟まよふ葉のらふはれ井 佐角

新二歌さうね行出て店のみ 杉風

まろくまのねらうねの月 希因

すさやうた散巻のらうて店のみ 也有

ふまむの木のさうさうの月 燕村

曉さうのさうやのらうれつき 青蘿

月名 晴れを月のかんはとていし 正秀

外市 外市ふてねあ拾ふ人十之板 浮風

八合の月とていしや外市の 雨聽

年系 つののいさ月とていし 燕村

市選官 市正と西のりらふ百年 立吟

美

若本強のまじりたれんか 支考

白くみの霞さしつゝれむ

とちのしづかにあはれむ 乙由

塗ののちつりつゝやまのむ 木導

水辺のちよとれつゝのまじり 支草

りだのいかにあはれむのまじり 嵐蘭

笑ふもあはれむのまじり 越人

痛まのよき白くまじり 子梅

冷酒のねもあはれむ 佃居

朝のつゆもあはれむのまじり 千代

あまのつゆにたれむのまじり 蕪村

ふたやねのたれむのまじり 蘭更

まじりつゝまじり一本のふもあはれむ 大江丸

美

言はれてはつゝまじりつゝまじり 雨江

蘭

月夜にまじりつゝまじりつゝまじり 青蓮

草

青のまねつゝまじりつゝまじり 龜世

草持

たけつゆやまじりつゝまじり 座羅

松茸

まじりつゝまじりつゝまじり 蕪村

松茸

松茸けやまじりつゝまじり 吾仲

松茸

松茸けやまじりつゝまじり 惟然

松茸

松茸のふれつゝまじり 甲乙

松茸

松茸のふれつゝまじり 大江丸

松茸

松茸のふれつゝまじり 支考

松茸

松茸のふれつゝまじり 李由

松茸

松茸のふれつゝまじり 蕪村

松茸

松茸のふれつゝまじり 蓼太

松茸

松茸のふれつゝまじり 支考

松茸

松茸のふれつゝまじり 蘭更

高麗菓 本は芥のこしをほしきるおひふ 佐考

ね こま かつらぬね こま 日かづね 祐昌

本菓 孫らへ色本菓の中は麻のふん 李里

振美 本菓子 鬼貫

梨 本菓子 大江瓦

栗 古菓子 鬼貫

栗 本菓子 射江

栗 本菓子 青羅

栗 本菓子 牡羊

栗 本菓子 九兆

栗 本菓子 大徳

栗 本菓子 利半

栗 本菓子 佐考

栗 本菓子 支考

つつと熟材 白歌

つと 支考

推 本菓子 沾徳

推 本菓子 燕村

推 本菓子 二柳

推 本菓子 北枝

推 本菓子 曉臺

推 本菓子 几童

推 本菓子 大江瓦

推 本菓子 古帆

推 本菓子 富定

推 本菓子 京苑

推 本菓子 重頼

推 本菓子 嵐雪

濃霧や一階はつたるの音 春坂

彌引 引上て空河とていんがし 白扇

の葉 うつらふさのほろやあやふ 大畑

稲丸 葉のす入るすぬり下り月

七里 秋うつらうつらにたなうた

支考 藤よはすのれしとてあはる

千川 中葉のちしうしとてあはる

柳七 雁はまゝのうしとてあはる

毛細 松茸のまのすしれにたな

青羅 灯火は風うつらうつらに

几董 仁ねさや門のあはるを

大魯 こそこのあはるあはるを

千代 青きうしとてあはるを

雪芝 家一とてあはるを

露雨

わさやをて木まのうらやあはる 幾野

希因 葉のまのうらやあはる

露川 冬は 雨は白のうらやあはる

燕村 秋は 戸を打く程と秋は情を

昌碧 早秋 秋は 秋はれとてあはる

色蕉 行秋 秋は 秋はれとてあはる

乙由 秋は 秋はれとてあはる

文章 秋は 秋はれとてあはる

社年 秋は 秋はれとてあはる

蕨人 秋は 秋はれとてあはる

二柳 秋は 秋はれとてあはる

大江元 秋は 秋はれとてあはる

冬

十月

初雪のしるし 霜のふり 雨の支考
 秋の葉の落ち 木の葉の許六
 雪のふり 枝の折れ 菊の口
 けしきの道の白ひら 木の野岐
 雲のゆくえ 空の青
 初雪のふり 雪の西谷
 雪のふり 雪の諷竹
 雪のふり 雪の青羅
 雪のふり 雪の淡々
 雪のふり 雪の團更
 雪のふり 雪の千代
 雪のふり 雪の白雲

雪のふり 雪の執行机 去来
 雪のふり 雪の李由
 雪のふり 雪の木因
 雪のふり 雪の浪化
 雪のふり 雪の野岐
 雪のふり 雪の乙由
 雪のふり 雪の北枝
 雪のふり 雪の野岐
 雪のふり 雪の去来
 雪のふり 雪の宇佐
 雪のふり 雪の三岐
 雪のふり 雪の知外
 雪のふり 雪の氷因
 雪のふり 雪の青羅

竹葉吹火の青と村にうれ 歳入

見悪もねくこつめく山崎 空若

ひりしと池の音を夏村ぬる 壺中

雲や時よまたのやののらと 朱拙

押のまこ相いせのうしと 野坂

十月 十月のいひわくたつと 縣草

十月の人まきとりの月おぬ 五明

十月 野のねくつとくわふた 甫尺

あそ ぬそや白湯と味あは後宮 千梅

あそこの機いふやたりと 蓼太

小春 とも栗のいふとつとく 鬼貫

新涼してあはふとつとく 李由

殿のねのさおとつとく 涼備

非送 戸とつとくとつとく 非送

世のつとくのとつとく 非送 鬼貫

けいりの年のつとく 非送 木枝

腕のつとくつとく 非送 除風

あつとくつとく 非送 徐實

あつとくつとく 非送 太極

蓮花 ちとつとく 非送 白雄

芭蕉 ちとつとく 非送 二柳

芭蕉 ちとつとく 非送 大江元

十月 やつとく 非送 大魯

對後 美鶴 ちとつとく 非送 芭蕉

十人の身まはつとく 非送 史邦

史邦 ちとつとく 非送 冥魚

上京 ちとつとく 非送 儿董

十女 小切まのつとく 非送 乙由

下条のくしてのよてとも十枚并 許六
 伏火は鴨居のひくろ十枚并 伏水
 白の内の隈へひくろ十枚并 千梅
 屏風居とふるまはれろ十枚并 史邦
 蓮池のよとろひひ十枚并 涼信
 郭のておろく十枚并 也有
 あさこゝと茶もたふく十枚并 蕪村
 あはよすこととせろくはる哉 芭蕉
 玉巻百人あそぶくろくし 山店
 けくろ我内裏のちろくし 嵐竹
 けくろ哉十ろくたは、おの伏 史邦
 けくろろろろろろろろ 戎講 去来
 せれそのちろくお戎かろ 杜若
 ちろくろろろろろろろ 我海 暁堂

庶幾

まほ

おれ

お

ねおや茶冷ゆる後の段 芭蕉
 おしもやうてつろろ酒の輪 史邦
 おしもや食くことも待たぬ 野坡
 何物そらうひもさういおまはひ 一枝
 ねおやちろくひろろろろ 正秀
 戸よとろろおの葉葉行の門 横草
 隠家や茶もたふくろろろ 路通
 ひろろろ列てふろろろおおお 惟然
 からくろおろろろろろろ 芭蕉
 有めらろろろのよよのちお 驥道
 むめろろろろおの世川井 馬肝
 おの葉日のちろくおおお 田中
 赤しことおおろろろろろ 蘭更
 を追ふ麻の毛とておお白し 大は丸

風

松枝のやうなまのいづうれ 大江元

あつたふくまけもねーま程 利平

風や天井くぬの堂の内 林紅

石板のうらうねやとん神 夫柳

風や歌のまうとく崎の岸 雨邑

風よこころとまりとまらば仁と計 乙由

風や外よかくれてまらまら 色蕉

風よ紅の鮎ひらむ入江に 露沾

風や橋たふし海の香ふらん 四醉

風よこころあふまのや藤の角 元梅

風よいつとまらうとや馬 正秀

風のおめあられやまの弦 陽和

風や海よかいつく神音 蝶夢

おきかおら抱つてまらまら 澤望

氷

氷峯

萬年

畦足

桃隣

諸九

巴人

百卷

佐角

配力

青蘿

鳥明

其角

燕下

氷峯

氷

氷峯

氷峯

石原のそとに水も盛んね 宇路

かむのすくに水もや流のう 柳雨

赤龍草のついでもねたつらね 物丸

松竹で横まつくの山辺うね 来山

味し一月うしねは流のそ 可董

冬月 瓦釜のえ流し一冬この月 干梅

居風呂よ鳥もつれはそ月 露川

そ月月夜とくすすの流が 木尊

そ月月らー豆腐ふねのむ 乙由

そ月月らーとくすすの流のそ 蘭更

砂の石のそくきしねね 白柳

くら風の水田水はてきき 序令

あまのさくさくさくさく 去来

ねりてぬまぬまのそ 路通

寒

そらねねやねよこのあけの青 撰ま

お辰川の一夜よねうてきき 風國

あまのさくさく 宿連のけらら 荷口

小孫見よ茶と授けよそ 斜宿

野のひもきーね 亦 波村

あまのさくさくさくさく 麦光

葱白く洗ひよるさき 芭蕉

茶余曲てねらよ押込こ 草離

くさねねねらーさくさくのそ 白雄

そらさくさく 枯木の中のはらね 斗入

ふたたての流のと毛のそ 大江丸

あまのさくさく 茨葉はしき 和及

あまのさくさくさくさく 芭蕉

あまのさくさくさくさく 諸九

冬夜

其角 氣のよやそねりやんをん純

涼菴 唇のよきいっつうそそりり

風律 さーむいひ橋うへてをる勢

蕪村 居眠りてそおにうへんをん純

青蘆 雪のよ果の備をうあこりり

芭蕉 冬抱 冬つれの破ふ今知るこそぞ

千代 を抱ひしり牡丹の枝をさう

窓芭 を抱やるは木葉ようつりて

蕪村 春四 口初や五山をんをんはりて

杜若 加南 加南やそあうつれ母のこね

杜若 加南や後つらうり我をん純

古帆 加南やとどす光のつりぬく

芭蕉 春忘言よあくこそぞ

大江丸 心まのこねりまておる巨罪

二柳 火燈せのよこしん宗むお流

風律 心のよまてまほして火燈和

乙由 埋火や噴くれい星一

浪化 埋火をほみうるまおのらう

青蘆 埋火よねるそ病ひいれうね

芭蕉 火捕 火のほね子吹る火捕うね

其角 白川の浪とてを相火捕

存義 火後まや火捕のかてん

臥央 火捕抱てうねうらふお流

蕪村 流よまてんよをん火捕お

祐昌 火捕抱て居まはるおのね

壺中 火神 火をれおや火神おのころ炭火

白雄 陽婆 一板二板後かたんももろは

洒堂 指 鶴や指くぬの火のうらう

指の火けたらぬ花のうららき
遠くをすくむららぬ指火井 チホ 仙李

あつとくむららぬあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 大魯

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 田央

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 其角

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 半隱

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 青羅

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 北群

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく チホ 蕪村

かしの野ちのすみのけのむら 蕪村

あけくけいけいあけくけいあけくけい 昔橋

あけくけいあけくけいあけくけい 二柳

あけくけいあけくけいあけくけい 千山

あけくけいあけくけいあけくけい 去来

あけくけいあけくけいあけくけい 浪化

あけくけいあけくけいあけくけい 涼苑

あけくけいあけくけいあけくけい 蕪村

あけくけいあけくけいあけくけい 曉臺

あけくけいあけくけいあけくけい 牛坂

あけくけいあけくけいあけくけい 木導

あけくけいあけくけいあけくけい 月尋

あけくけいあけくけいあけくけい 逸漢

あけくけいあけくけいあけくけい 蕪村

すりて物くちのあけくけい 大江丸

あけくけいあけくけいあけくけい 祐昌

あけくけいあけくけいあけくけい 権良

あけくけいあけくけいあけくけい 石交

あけくけいあけくけいあけくけい 涼信

あけくけいあけくけいあけくけい 團水

あけくけいあけくけいあけくけい 乙由

あけくけいあけくけいあけくけい 李冠

あけくけいあけくけいあけくけい 序令

あけくけいあけくけいあけくけい 野坡

あけくけいあけくけいあけくけい 大江丸

あけくけいあけくけいあけくけい 蕪村

あけくけいあけくけいあけくけい 授子

あけくけいあけくけいあけくけい

杜若

白圖

菖蒲 小舟 枯菊 白く

千梅

惟然

窓巴

杉風

團更

曉暈

斗入

二柳

蘭更

蕪村

團更

枯野 鶴を鳴 枯野より 白鳥 扣雅

鳥のりや 枯野の 秋之坊

竹鶴の 抱ゆる 康工

乙由

其角

蓼太

曉暈

蕪村

養浩

碧川

半殘

乙由

何之

近之

桐

枝のしるしを由る桐代の無部 曉臺

川つをきみぬく入細代も 其継

ね政のまゝもさうして細代も 也有

孫えよ月くそ生も細代も 牧童

氷魚 月くけのくけけていり水魚也 松笠

宇後 宋後よ浪のこころをきき 我々

かき ありとありありありあり 蕪村

ありとありありありあり 青蘿

ありとありありありあり 乙刈

柳

柳のしるしを由る柳代の無部 十那

篠坂つらつたおまけも 元灌

雪ふんては提してこれ柳 杜若

村ももほしめいりてしや 風律

おのりていりていりていり 曉臺

まゝいりていりていりていり 几董

村雨よ音もまぢりていり 蕪村

く〜りていりていりていり 門瑟

まねをふりていりていり 松元

雨やんてせうらうらうら 大心丸

やららふふさつ〜や鶴の角 雪芝

け〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 芭蕉

鴨やちうらうね田のまらみ 二柳

夕霧の浮海こよひも月夜也 風律

なごのころ〜やあり〜と為氷 文里

なごのころ〜ら〜ら〜ら 暁臺

は〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 吾仲

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 歌扇

糸のよめぬねも水〜張のまら 北枝

鴨

琴

新編

糸

東や雪や夕月も入一後 蝶夢

まをり雪の指さるの松 鬼貫

海京や一途氷の雪の夜 除風

雪の指さるけふの海ふるの雪 蜂房

雪の指さるけふの海ふるの雪 麦水

雪の指さるけふの海ふるの雪 尺素

雪の指さるけふの海ふるの雪 枝東

雪の指さるけふの海ふるの雪 許六

雪の指さるけふの海ふるの雪 二柳

十一月

雪月 かんが月雪のうらみ風 杉風

一しかり雪のうらみ風 矢野

冬玉 雪のうらみ風 乙由

水仙の目もさるるを玉柳 石蘭

江成紙で冬玉の加匂なり 蒼洲

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

波助 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

梅忌 梅忌や吹のそよ風も 秋心 采山

神抄

初日に花ありれぬくもたらぬ 紫雲
 一しやうの露てや雨のそらたぬ 魯中
 亂まらぬのよせぬまや神抄 子葉
 痛ハハハとなくそ静たぬ 木導
 息よとらる時あやや静たぬ 曉臺
 静たぬたぬくもぬの静たぬ 蕪村
 仏よりあ静たぬまー静抄 希因
 静たぬき月あいにとらるこ 夢太
 旅人し形とまゆけとらるま 杜若
 こららぬいふかきまの行たぬ 獅吹
 ま抄のまのよとやけとの雪 乙由
 こららぬまのよとらぬまの雪 其角
 あれしとらまのいしてまの心 蘭更
 甲とらぬまのよとらぬまの心 杜若

雪

こららぬまのよとらぬまの心 千那
 雪はかきよ後のる静たぬ人 望翠
 静たぬまの雪あつとらぬまの心 如行
 雪の日や人とあつとらぬまの心 嵐彈
 小枝まやまのこの枝まの心 風國
 旅つるまのまのまのまのまの心 夫冊
 静たぬまのまのまのまのまの心 自樂
 雪よとらぬまのまのまのまの心 一音
 大日枝や小枝まのまのまの心 蝶夢
 白雪の中ふかきまのまのまの心 夢太
 静たぬまのまのまのまのまの心 儿董
 ひとつとらぬまのまのまのまの心 松兒
 なまらぬまのまのまのまのまの心 湘水
 たぬまのまのまのまのまのまの心 涼菟

雪

雲吹 月夜しも言ふもさやうに秋の夜

雲車 ひろくもたれくもさやうに秋の夜 薛尤

雲 みるくや雲のそくゆり時 平爽

雲 毛屋のちもたれくもさやうに秋の夜 史邦

雲 無のまゝの水よかこたれくもさやうに秋の夜 夢太

雲 新田の居風もさやうに秋の夜 昌房

雲 指きの山向こさうに秋の夜 正秀

雲 みるくの大前もさやうに秋の夜 泥足

雲 ぬくぬくまの夜もさやうに秋の夜 友静

雲 依りてはしるもさやうに秋の夜 白雄

雲 依りてはしるもさやうに秋の夜 曉臺

雲 依りてはしるもさやうに秋の夜 風國

雲 依りてはしるもさやうに秋の夜 也有

雲 依りてはしるもさやうに秋の夜 也有

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 猿雄

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 嘯山

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 楠芽

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 鬘風

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 也有

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 蕪村

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 自新

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 色蕉

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 鬼貫

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 太祇

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 大江丸

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 蕪村

大根引て松風のきくもさやうに秋の夜 蕪村

ふくとけ打をききたてて喰ひて 希双

納豆 納豆をもちたれや峰の雪に 文州

生海氣 木の槨のやうに思へ生海氣 乙由

あふとくふふふふふふふふふふ 蕪村

梅よこへあけかきして海氣 二柳

乾鮭 乾鮭も宜也の夜も雪の中 芭蕉

つとけはまはれたふふふふふふ 祐昌

から鮭と鳴りくわやけつ 雪芝

蘇 暖や蘇の吼るまゝの海 曉臺

七浦の人とて蘇とる 仄尺

お貝引 我まは月夜をたてお貝引 二齋

十二月

ゆき かくらひゆきを海のうらつち 蕪村

世の中は梅うら上のゆきを 如行

赤くもた小角豆も市のゆきを 正秀

何甲のゆきを小交る雀うれ 乙由

冬をぬるものゆきを平睡部 萬海

冬もぬるものゆきを外ゆき部 乙州

雪れおのゆきもゆきを風部 青蘆

田ころの音もゆきを市の中 二柳

さくさくと雪つゆきを月夜部 曉臺

いろつゆきと雪と雪と雪と 白雄

彌八 彌八よゆきの傍かぬきなり 諸九

彌八やゆきふたつて傍一人 蘭更

寒念仏 雪を念佛ゆきもゆきもゆきも 康樂

父もぬく母もかたきも念仏 大江丸

お念仏や氷もる証を首家 諸九

遠くはるか東の海に青蓮

門からふちれ半そらるる風

佛舎 仏名やすかたはるるの中 許六

寒の いろいろして梅や室なる入 二柳

寒の 庭いろいろや氷のきり入 松元

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒声 雪の片一里をうらまを山父

寒声 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

寒の 雪の片一里をうらまを山父

鹿野

せしは報謝の心

鬼園

せしはや月づく松林 浪化

鳥

豆と赤書の中 其角

鬼がす大のや豆の意 菘雞

終賣

松は價出と日ふり 柳水

鬼のつてつとつ 杏丸

手忘

魚の心がら 芭蕉

お人の心 乙剛

本屋の心 幽泉

人心の心 杉風

心心の心 曲翠

心心の心 鴛鴦

狂徒

居屋の心 乙由

心心の心 千代

年のうらな 大魯

昔の麻衣 希因

まふす 亀洞

ねませり 大丸

打火の花 鬼責

一儀の巻 諸九

子の尾 乙由

子の尾 乙由

草木

らじし 飄竹

溪の戸 竹阿

年市

雪の心 乙由

年の市 乙由

年の市 乙由

掛

松の心 乙由

松の心 乙由

兼日 羽衣つゝしたのむとくく 蝶夢

本音 鶴下ふ日くをたらうは 其角

おつ 此月の極や大二十日京 移竹

日一人のまのまの一日の如 仙化

の年 りにしや本紫文うのくは 沙明

の年やうととふれい半の角 青蘿

りくくや源の月たて 其角

りくくや源の月たて 米約

兼書 はしりまよふく 野城

兼書 お記といはらふ年いれかき 千代

から雛の月もぬけかきしこのれ 梅貞

居ぬくれの侍やう 権長

行はぬいしし 出童

梅のけりいあれく 芭蕉

養うりし日とあつらふ 斗八

兼書 くくちかおきく 萬村

兼書 大くちかおきく 萬手

大車や新波堀江の野のま 春鏡

田舎のまのま

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 大坂, 淺野, 高造, 筆主, 西村, 源六, 角丸, 屋甚, 助, 須原, 茂兵衛, 浦井, 徳右衛門, 菊舎, 太兵衛, 野田, 治兵衛.

大坂 淺野高造筆主

文化八年辛未
八月吉日刻成

江戸書林

京都書林

西村源六

角丸屋甚助

須原茂兵衛

浦井徳右衛門

菊舎太兵衛

野田治兵衛

大阪書林

平野屋 宗七

秋田屋 太右衛門

布尾 忠三郎

鹽屋 平助

鹽屋 忠兵衛

藤屋 徳兵衛

敦賀屋 久四郎

今津屋 辰三郎

藤屋 善七

大阪書林

兵部書林

八月吉日辰卯
文山人辛未

Handwritten notes and stamps at the bottom left of the page.

